

府立勤労者福祉会館あり方検討委員会第4回会議

1 日 時 令和4年10月17日(月) 13:30~15:00

2 場 所 京都府庁 職員福利厚生センター 第2・3会議室

3 出席者 真山会長、上田委員、瀧田委員、長谷川委員、原委員、
水野委員、山本委員(以上7名)

4 概 要

- ・勤労者福祉会館の今後のあり方について意見交換を行った。
- ・これまでの意見交換における委員からの質問に対する回答を確認した。
- ・勤労者福祉会館利用者アンケートの実施結果に関する中間報告を行った。

5 委員からの主な意見

○職業訓練について、一般的には人口が少ない地域では民間職業訓練の数が減る傾向にあるが、現在の機能が代替・継続できるかどうかというのは会館のあり方検討の重要な判断要素となる。

○勤労者福祉会館という名称について、中高年層は社会福祉や社会設備と勤労者という意味が重なることで抵抗は無いが、若年層は勤労者という言葉になじみが無いのではないかと。

○時代の流れと施設の利用目的はリンクしているのではないかと。近年で利用目的がどう変わったのかということも、あり方を検討する場合には必要。

○例えば団体属性に関する設問から、勤労者の福利厚生という施設の初期目的を達したかどうか、近隣住民の余暇活動のための施設と解釈するかなど、アンケートの回答内容をどう読み取るかが論点となる。

○アンケートの自由記入欄について、意見要望等から分かることがあるので大事であり、しっかりと検討することが必要。

○選択式アンケートでは、回答者の認識が必ずしも一定で無いため、実態を100%完全に表すものではないが、一定の傾向は読み取れるので、その結果をどう読み解くかということが重要。